評価のポイント

CL-Ⅲ.意思決定を支える力 （共通）

［5-3］　　がんや心不全の進行プロセスを踏まえた意思決定支援

①　悪性新生物と心疾患の進行プロセスの特徴について説明してください

予後予測の観点から、以下のように悪性新生物と心疾患の違いを確認できると良いでしょう。

- がんは診断後も一定期間 ADL が保たれているが段階的に終末期へと移行し、急速に身体機能が変化する。それぞれの転換期が明らかで予後予測がしやすく、治療中止の判断が行われ終末期ケアへと移行する。
- 心不全はがんと異なり、病態の増悪と寛解を繰り返しながら進行し終末期の見極めが難しい。治療自体が症状緩和となるため最終段階まで治療が継続される。

②　疾患による意思決定支援の違いについて説明してください

告知時のインパクトや進行プロセスを患者がどのように受け止めるのかを整理し、支援の違いを確認できると良いでしょう。

- がんは病期の進行に沿って比較的シンプルに治療や生活の場などの選択肢を提示し意思決定支援を行うことができる。患者にとっては、具体的であるからこそ将来への不安や恐怖感を募らせることも起こるため、告知を受けた際の強い衝撃や動揺の程度を把握するとともにその回復の具合を見守っていくことが求められる。時間的に余裕がない中でもその時々の最善を選択できるよう、正確な情報を提供し意思形成できるよう支援していく必要がある。
- 心不全は治療介入によりある程度回復するため、患者家族も医療者も病期の進行をとらえにくい。そのため体調変化を感じている時、入院をした時などの機会を逃さず終末期を含めた将来の状態悪化について繰り返し話し合いの場をつくる必要がある。

③　普段担当する身体疾患の特徴や経過を踏まえながら、どのような意思決定支援が望まれるのか検討しましょう

意思決定支援を考える際には個別的な配慮を必要としますが、まずは疾患の進行プロセスの特性を大きくとらえて、介入のタイミングが確認できると良いでしょう。

次に、その介入の頻度や支援内容について考えていきましょう。

がんや心不全以外の普段よく関わる疾患（呼吸器疾患や神経疾患、認知症など）について考えてみると良いでしょう。

答えは一つではありません。具体的な患者をイメージしながら検討していきましょう。